

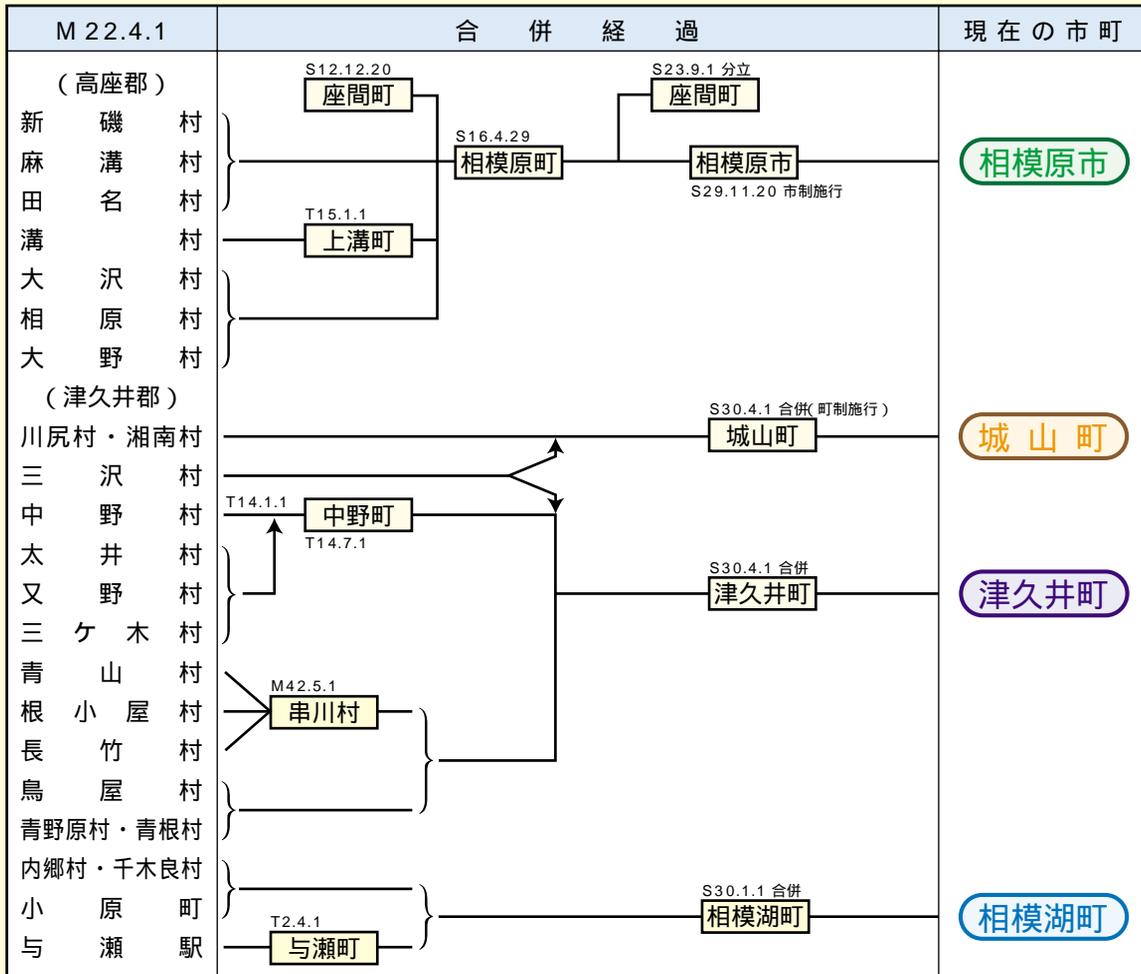
# 相模原・津久井地域合併協議会だより

平成16年8月

# 1市3町データ特集号

発行・編集／相模原・津久井地域合併協議会 〒229-0036 神奈川県相模原市富士見6-6-23 けやき会館3階 ☎042-769-8206 ホームページ <http://www.st-gappei.jp>

## 現在の1市3町ができるまで



資料:これからのまちづくりと市町村合併(神奈川県市町村課)

全国の市町村は、これまでに「明治の大合併」「昭和の大合併」という2回の大きな合併を経て、現在、3,087 (H16.8.1現在) になっています。

「明治の大合併」では、戸籍管理、小学校事務ができる規模を標準とした合併が進められ、全国の市町村数は約5分の1に減少しました。

また「昭和の大合併」では、中学校を設置できる規模を標準とした合併が進められ、全国の市町村数は約3分の1に減少しました。

相模原市、城山町、津久井町、相模湖町においても何度か合併を行い、現在の姿になっています。

少子高齢化の急速な進展とともに、我が国は、2年後の平成18年から人口減少社会に入ると言われております。市町村は、昭和の大合併以降、我が国の右肩上がりの人口増加と経済成長という環境下において行財政運営を行ってまいりました。

しかしながら、これからの市町村には、国全体の人口が減少傾向に転じ、成熟経済という厳しい環境の中で、自己決定・自己責任の原則の下、これまで以上に効率的な行財政運営を行うことが求められております。また、住民の日常生活圏の広域化や少子高齢化の急速な進展、厳しい財政事情、情報化の進展など社会情勢の変化に効率的に対応しながら、住民サービスの維持・向上を図っていくためには、行財政基盤の充実・強化を図っていくことが急務とされて

おります。

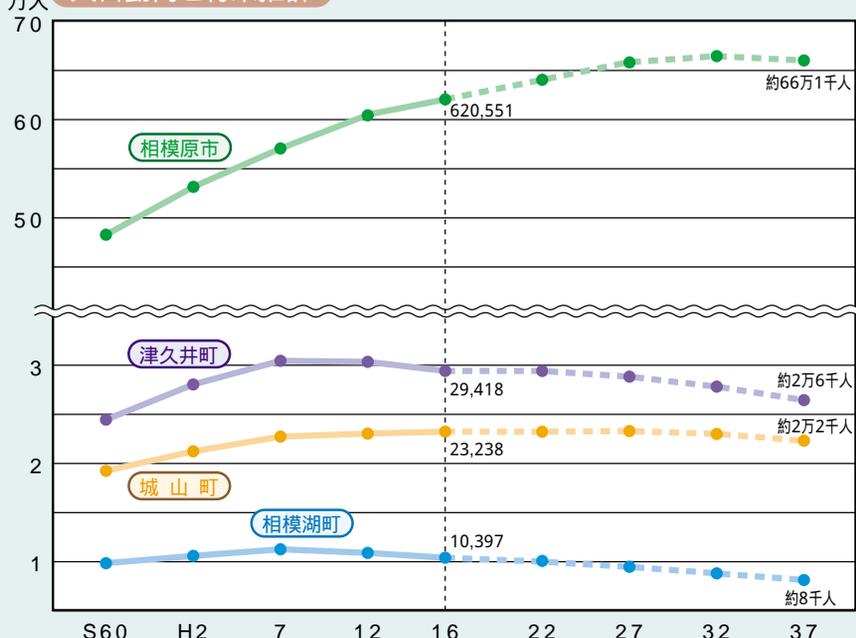
市町村には、地方分権の進展を踏まえ、自主性・自立性を持ったまちづくりや住民福祉のさらなる向上に向け、これまで以上に個性あるまちづくりの推進が求められております。

市町村合併は、行政を効率化し、行政サービスを維持するための有効な手法の一つで、21世紀型の新しい基礎自治体を構築するために取りうる有効な手段でもあります。

この「データ特集号」では、皆様に市町村合併を身近に考えていただくために、1市3町の人口、面積、行財政の状況などを分かりやすくお示ししました。合併協議についてのご理解を深めていただく際の参考にしていただければ幸いです。

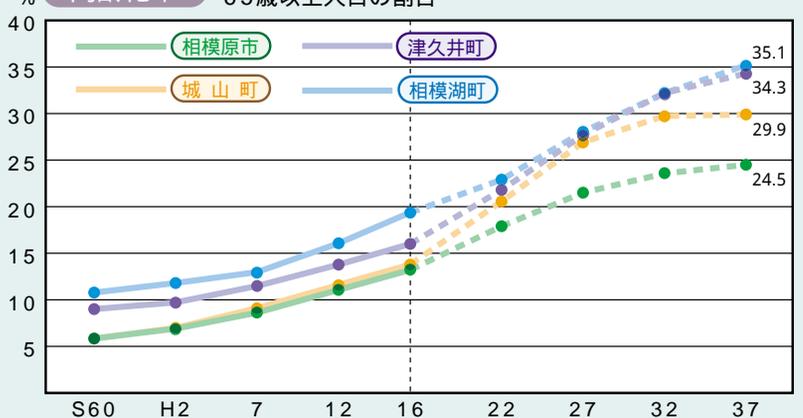
## 進む少子高齢化と人口減少

### 人口動向と将来推計



S60～H12は国勢調査  
H16年1月1日は各市町統計担当課  
相模原市の将来人口(相模原市企画部企画政策課)については、コーホート要因法、津久井町3町の将来人口は、市町村の将来人口(2000～2030年)(財団法人日本統計協会発行)のコーホート変化率法

### 高齢化率 65歳以上人口の割合



### 年少人口比率 0歳～14歳人口の割合

